

水稻育苗ハウスを活用した福地鶏雄鶏肥育技術

福地鶏雄鶏肥育を推進する一つの方法として、夏季から冬季にかけて空いている水稻育苗ハウスの有効活用が考えられます。しかし、育苗ハウスは、透明ビニールを使用しており、暑熱対策なしでは鶏を飼育することはできません。そこで、寒冷紗や育苗ハウスに備え付けてある灌水システムを活用し、福地鶏雄鶏肥育試験を行ったところ良好な成績が得られたので紹介します。

1 技術の内容

(1) 簡易鶏舎 (2m×2m) の作成方法

ワイヤーメッシュ (1m×2m) を縦方向に2枚繋げたものを2組横に並べて1辺を作り、計8組を用いて2m×2mの枠を作成し、その枠の外側を高さ2m幅の防獣ネットで囲います。防獣ネットは、上部のハウス支柱に紐で固定し、角の1か所は出入り口用に開閉可能とします。(写真1、2)。

このサイズで、約30羽の福地鶏雄鶏を飼育できます。

(2) 暑熱対策

暑熱対策として、ハウス内側に遮光率90%寒冷紗を取り付けることで、出荷時(120日齢)体重2.4kgとウインドレス鶏舎なみの増体が可能です。ハウスのサイドは24時間開放(ネット必要)で換気してください。

(3) 飼養方法

福地鶏雄鶏の素雛は、畜産試験場から28日齢で供給します。

飼育期間は、28日齢から120日齢の約3か月です。

給与飼料はブロイラー肥育後期飼料(CP:18%、ME:3、250Kcal)を用い不断給餌、水は自由飲水ですが、朝夕交換してください。



写真1



写真2

2 技術利用の留意点

寒冷紗とハウス上部との間の空気層は熱くなるので、寒冷紗を設置する際は、なるべくたるみを少なくしてください。中獣類侵入の恐れのあるハウスは、電気柵の設置を検討してください。

〔技術の効果およびコスト〕

既存の水稻育苗ハウスを利用するため、新規に鶏舎を建設しなくても福地鶏の肥育が可能となります。100羽飼養する場合の必要経費は190,000円(素雛代:4,000円、飼料費114,000円、食鳥処理費72,000円)です。出荷価格を2,500円/羽と仮定した場合、250,000円の収入となり、60,000円の収益となります。なお、初期費用(ネット等の資材、給仕器、給水器、出荷用カゴ)として約120,000円必要となります。